寺崎組新聞

発行所　寺崎組新聞社

みはるちゃん　ごめんなさい

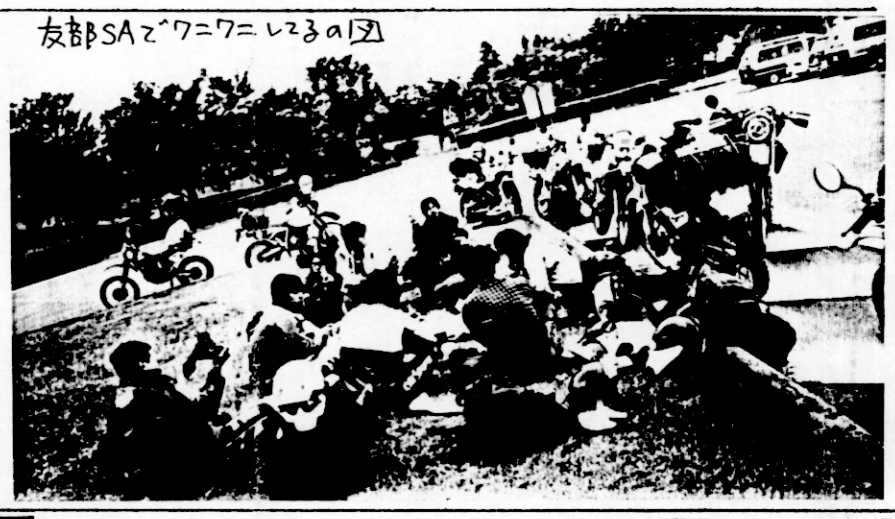
第四十四回組回報告

95年度寺崎組の幕はGW真只中の5月3日常磐道常陸中央PAにて切って落とされた。集まった面子は以下の通り。塾は初参加の柳沢＋TW。プー太郎からパチプロへ転身か？の毎日須藤＋XR。居候生活にピリオドを打った税金杉本＋セローオーストラリアSP。北海道から横須賀に飛ばされた自衛隊北脇＋新車なのにそうは見えないDR350。お馴染み過ぎる位お馴染みの大工と地下鉄のBAJAコンビ。バイトに精出すパッキン橋本＋KLX650SR。この時は、翌日降りかかって来る災難を知るよしも無いナース青木＋借物KLR600。そして小生は今回は真面目にXLRを引っ張り出してきた。組長と沢海氏は一時間の遅刻で一同から大ヒンシュク。

そのまま高速を降りて給油、買出しをさっさと済ませ竪破山周辺の林道へとなだれ込む。どうせ大した林道は無かろうとタカをくくっていたのだが大間違い。タイトでガレ場の続く走りごたえの有るダートが入り組んでいる。GXで来なくて良かったとつくづく感じた次第。伐採が進みモヒカン状態となった小山の合間が本日の野宿地となる。途中から雨が落ちてきて久々のドカシー下宴会も仲々オツなもの。一年振りの組会参加となった橋本は、喜びのあまり完全パッキン状態となり、火の粉をかぶりフリースを穴だらけにしながら焚火にお祈りを始める始末。北脇と地下鉄が揃えばこれはもう中島みゆきオンパレードかと思えばさに有らず。寺崎組の今後に着いてシビアな議論がなされたりする訳である。いつも歌って踊ってばかりじゃないのだ。

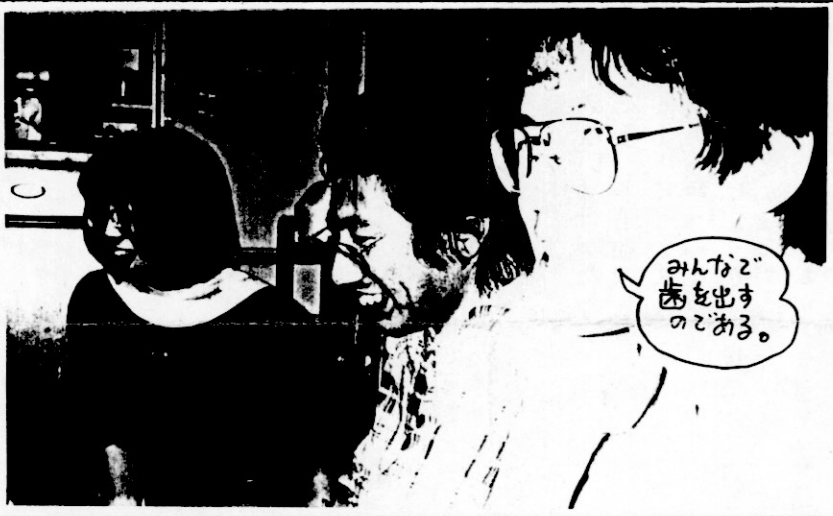
明けて4日、いつもの様にウダウダと朝飯を作り始めるが、北脇も税金もコールマンを新調しして来たため、小生のオブチマスは「うるさい」とブーイングの嵐を浴びてしまった。フンッ、俺だってコールマン位持ってるわい。

友部SAでワニワニしてるの図



さて本日は連泊必至かと思われたが、竜ヶ崎の航空ショーで零戦が飛ぶというので、飛行機オタクの多い組員の事、南へ向かう事になる。山を降りながら何本か林道をつつくが、みんな行止りの引き返し。高萩ICから常磐道に乗って一気に南下、友部SAで大休止。人目を避けて隅の芝生の上でメシを喰いながら本日の行き先を検討した結果、とんでもない結論が出てしまった。甘い新婚生活を送っている青木家に小汚い野宿者が大挙して押しかけようというのだ。沢海氏の携帯電話からみはるちゃんに連絡を入れる青木氏の顔は引きつっていた。とっ散らかってるらしい青木邸をみはるちゃんが片付ける時間を稼ぐため一時間以上そのままワニワニする。（注：山梨弁でウダウダするの意。詳しくは沢海氏にお聞き下さい。

岩間ICで一般道に落っこち、筑波山のまわりを抜けて遂に青木邸に到着してしまった。あまりにおしゃれな雰囲気にタジタジとしている我々をよそに一人でズカズカとリビングに押し入り、ビールを飲み始める組長であった。「この図々しさを営業に使え！」というのが我々の一致した意見であった。近所の人の疑わしげな視線を浴びながら、汚いバイクを強引にJ57の横に並べる。「バイク屋を始めるんだよ」と応える青木氏はほとんどヤケクソである。全く不幸というのはどこから襲って来るかわからんもんである。



交代でシャワーを浴びさせてもらい、いざ宴会に突入。いくら何でもみはるちゃんに料理まで作らせては申し訳無いので、寺崎組の誇る料理人・地下鉄がキッチンに入り込み、"スペシャルチャンコ・タンメンの具風味"を見事な手さばきで仕上げ、一同の大喝采を受けたのであった。窓の向うでは青木家の愛犬、ネネ・チャチャ・ヤヤが愛想を振り撒いている。エサをやる時だけ愛想のいいどっかの犬とはえらい違いだなあ。みはるちゃんも夜勤明けで一時間しか寝ていないというのに12時近くまで宴会に付き合ってくれました。

寺崎組一同、深く深く感謝いたします。我々の無軌道な行動が青木家の家庭不和につながらぬ事を祈るのみである。

明けて5日は子供の日、朝からくつろぎまくって出発は10時。組長は急にお母ちゃんが恋しくなったのか、そのまま高速に乗って山梨へ帰って行った。我々は当初の目的通り零戦を見る為、一路竜ヶ崎へ。飛行場に近付くにつれ人人人々々々…。飛行場の中に入ると3千円取られるので、近くの田んぼのあぜ道に陣取る。待つ事しばし、ややバラついているものの、栄21型発動機の爆音を轟かせ零戦52型はその雄姿を竜ヶ崎上空に現わした。さすがに派手なスタントは出来ぬようだが、その迫力に一同大感激。ポケーッと口を開けて上空を見上げて続けていたのだ。特に沢海氏は完全にはまってしまったようだ。

無事零戦の飛行も終了、次は我々の寝ぐら探しである。とりあえず利根川近辺しか無かろうかと目星を付けて進む。買出しを済ませ、堤防を越えて臭いをかぎ分ける事しばし。水際にそこそこの場所を発見。中庭方式でテントを張り、いつもの様に酔っ払い、いつもの様に歌って利根川の夜は更けていったのである。

記　酔っ払い金子

3・20

営団地下鉄、霞ヶ関駅を中心に毒ガス「サリン」をまくという事件が発生した。僕は技術屋なうえ、今は南北線（東京の人でも知らない人がいるので地方の人はもっとわからないと思うが赤羽から駒込まで6.4kmの路線です。さあ東京の地図を広げよう。）のみが管轄なので全く無関係に近いのだけれど、一年前までは霞ヶ関にある変電所が管轄の職場にいたのでそうとも言いきれません。一部の組員からは安否を気遣う電話をいただきありがとうございました。紙面を借りてお礼申し上げます。

実を言いますと当日の朝は前号の新聞を出した次の日で、エッグに泊まっていたのです。組長と須藤さんの3人でテレビを見て半ば他人事の様に思っていたのです。そしてその日は買ったばかりのマウンテンバイク（前日に池袋からエッグへ回送していた。）で高尾までチンタラ3時間かけて帰ったのでした。翌日、出勤したら近場の人は全員非常召集が掛けられており、事の重大さに気付くのでした。

ちなみに5／20現在、特別警戒は続いています。

サリーちゃん

地下鉄

春夏秋冬「終わりの章」

突然ですが私、この春に神奈川県民になってしまいました。そんなわけでこのコーナも、とりあえず終わりと言うことにしたいと思います。

1995・3・24　17時30分春の冷たい雨のそぼふる中、東京フェリーターミナルに愛車R100GSと共に降りたちました。横須賀まで夜のしかも雨の降る中、余所者には訳の分らぬ首都高速をびびりながらやってきました。

北海道を出る時はまだ雪の残る様な気候だったのに、こちらに来てびっくり仰天！山は緑、桜は今にも咲きそうな雰囲気。私はダンガリーシャツの袖をまくりあげ、汗をかきかき歩いている横を、他の人達はコートに手袋といったいでたちで、とんでもない物を見る様な目付きで私を見て行きます。まあ、とにかく暖かい！。いや暑いかもしれない・・・・。

次に思った事は家賃が高い！。向こうで入っていた所は、2LDK、ガレージ、倉庫、庭、そのほかに車を2台置けるスペースがあって3万円だったのに、こちらではぼろぼろ1K駐車場付で、な、なんと3万8千円もしやがる！。あと水がまずい！。私はまっ先にダイクマへ浄水器を買いに走りました・・・・。

なんか悪い事ばかり書いてしまいましたが、良い事も無いわけではありません。まず、1年中バイクに乗れます。向こうじゃどんなに頑張っても9か月乗れれば良いほうでした。あと買物に不自由しないという事です。特にバイク・アウトドアー用品に関しては現物を見て買えるし、取寄せても直ぐ入ってきます。

さて、私のバイクですが、前記の様な住宅事情のためどうしても1台は処分せざるを得ませんでした。BMWは手放せないし、ハンターカブは買ったばかりだし、こうなるとDRかイーハトーブという事になるのですが、DRはこっちで欲しいと言う人がいるので、結局イーハトーブを置いて来る事になってしまいました。そしてDRはめでたく友人の手に渡り、そのあとがまとして、またDRを手に入れました。しかし今度は250ではなくて、94年型、走行距離1400kmのDR350Sです。まあこちらに居れば北海道の様に距離も伸びないと思うので、当分これに乗る事でしょう。

そんな訳で、最低でもあと4～5年は横須賀にいると思うので、新聞の製作に参加したいと思います。皆さん原稿の方をよろしくお願いします。

つたない文章でしたが永い間、お付合い、どうも有難うございました。

今年の夏が怖い

北海道改め湘南　北脇でした。

TWへの道　第3話

あれは87年の春、28の頃じゃった…TLM50に乗り、中免取得に励んでいた頃から、書店で　ツーリング関係の雑誌や本を探したものじゃった…。

あの時初めて、寺崎勉著書や某誌の「ナチュラル ツーリング」と出会ったのじゃ…。なんと云ふ人がおるのだろう…と思う一方で、これじゃな…と思うたものじゃった…。

閑話休題、TLMを売却し、念願のXLRオーナーとなった柳沢だったが、えらい目にあってしまった。

走りは素晴らしいこと　この上なしだったが、（TLM→XLRだけに）止まっているときと、走り出すときはもうバイクが嫌になりそうだった。

寒い夜に出かけ先で、何十回とキックしながら泣きたくなった。悪始動性の噂は聞いていたが、あれは　まいった。立ちごけも何度やったことか…。

良いバイクである事は何となくわかっていたが…柳沢は考えた…努力と忍耐を延々と続けて、己の上達を図るべきか…？と。そんなある日、柳沢とXLRは華麗に空を舞った。

Fフォークは裂け、路上にしたたるピンク色の油を見ながら心は決った。（とりあえずフォークは修理した…）

87年10月某日、バイク売買屋さんの軽トラに積まれて去って行くXLRを見送りながら、ドナドナを口ずさんだ。自己嫌悪…！

以下次回…？

編集後記

大工■上野原は「道」、国分寺は「きりしま」だせ

地■みゆきさんの曲がかかないのが不満だよ

毎■私は静かにパチプロの道へ進みます

北■私はみゆきさんの歌しか歌いません

青■私が来るとどうしてカラオケに行くのでしょ

税■とうとう引っ越して静かになりました

金■私は静かにあんりとり〜今度別モーに出

元■まだ病弱です彼女もいません■柳接部

組長の講演会

ホンダ主催のバイクフォーラムに組長が出ます。皆でひやかしに行こう。

開催日　6月18日（日）

開演時間　14時～16時

場所　本田技研工業株式会社　青山ビル1階　東京都港区南青山2－1－1　地下鉄銀座線／半蔵門線「青山一丁目」下車徒歩1分

入場料　無料

草原、遥かなり。

第3回

寺崎　勉

三、行き違い

ウランバートルに着いた日、現地旅行社の人と打ち合わせをすることとなった。旅行社が経営するバヤンゴルホテルの一階ロビー、外国人専用の高級ホテルだというが、妙に古臭くて埃っぽい。それでも、草原から一週間ぶりに帰ってきた時には近代的だと思ったものだが。

皮張りのソファーに腰掛け、通訳のバンザイ氏を介して副社長と話す。

日本の代理店に渡した旅行計画書の再確認だとばかり思っていた。そう思って計画書のコピーを渡すと、ルート図はおろか日程表さえ初めて見ると言う。これには唖然となった。

この旅行はバイクを使ったトレッキングツアーである。私の国内外での旅は、自然を求めてラフロードを走りキャンプするというもの。それに賛同するツアーメンバーを集め、代理店にも御理解願い、ホテル無し、観光無し、ガイド無し、行きたい所に行く、という前提で値段交渉を進めてきたつもりだったのだが。

現地旅行社は、私達が今夜このホテルに泊まるものだと思い込み、私達が行くルートは南ゴビ往復の一般ルートだと思い込んでいたのだ。とりあえずホテルで水を貰い、旅行社のバスで近くの誰もいない草原に連れて行ってもらい、そこでキャンプすることにした。

次ぎの日もまた打ち合わせから始まる。その前に私達が借りるバイクを見せてもらった。ところが、日本では5台あると聞いていたバイクは4台しかなかった。正確には5台あるのだが、1台はスクラップだった。話が違いすぎる。おまけに、サポートカーの運転手がガイド兼通訳のバンザイ氏がいないといやだと　ゴネだした。これは後で判明するのだが、モンゴル人は人口密度が少ないためか大の話し好きなのだ。言葉の通じない日本人と一週間以上も過ごすなんてとんでもない事なのだ。

結局、バイクが一台少ない分をガイド兼通訳を付けるという事でチャラとなる。何だかいまいち納得しかねる感じだが、結果的には通訳氏がいる事によって旅がスムーズにいったし、バイクが4台である事により常に誰かが車に乗り休養出来たという面はある。

でも、全泊ホテルだろうがバイクが5台だろうが6台だろうがツアー料金は変わらないんじゃなかろうかという懸念は残った。でもまあ旅が終わってしまえば満足し過ぎるほどの自然が手に入れる事ができるモンゴルはやはり未知で偉大だった。

チベットへの道

可能性の追求

162号　野口雅弘

入笠山にて、チベットツーリングの話しを聞き、私はまたモンゴルの時以上の驚きで眠れぬ日々をを送っております。

計画では〈上海～ラサ〉ということですが、私はもう少し現実的に考えてみたいと思いました。いずれにせよ壮大な夢を一歩でも近づける為にです。そこで、中国～チベット～カトマンドゥのルートを考えてみました。

（中国～チベット～カトマンドゥ）として

①青蔵公路～中尼公路
西寧～ラサ（約2千km）～カトマンドゥ（約8百km）

②川蔵公路～中尼公路
成都～ラサ（約2千km）～カトマンドゥ（約8百km）

③インドカシミール～ラサ（約2千km以上）～カトマンドゥ（約8百km）

インダス川上流からヤルツァンポ川流域へ入る、チャンタン高原。

①のルートについて
青海省西寧を起点として走る可能性のあるルート。そして素晴らしい風景、崑崙山口（4450m）、タンラ山口（5231m）の峠越えがある。地獄道は人民解放軍によって一応舗装らしい。ユエンチェンタグラ（7111m）の美しい山が見たい！。

②のルートについて
成都から楊子江上流部の川越え、山越え（3000m以上）が連続し、最近はこのルートは使われていないらしい。難ルート。まったく最新の情報はつかめない。行ったら帰ってこれないでしょう。多雨地域でもある。

③のルートについて
ラサから西へ約1000kmの聖山カイラスまでは巡礼が五体投地して行くのでなんとかなるがその先はまず行けないと思われる。しかもチャンタン高原は平均4500mもある。ヤクを使って歩くしかないでしょう。この世とは思えぬ世界が広がっているがそのまま溶けてしまうでしょう。

④そして中尼公路（ラサ～カトマンドゥ）
ネパールとチベットを結ぶメインルートである。エベレストの北側を通りカンバ峠（4700m）と最後の難関、カツオーラ峠（5160m）もある。落石他、責任が持てません！が写真で見たりすると涙が出るほど素晴らしいルートです。

ルートについて、結論的には、①のルート、西寧からラサ～カトマンドゥの約2800km～3000kmが良いと思われます。次に

〈具体的な大問題点〉

①　チベット、中国ではこの部分の自由旅行が出来ない為、ガイドが必要。

②　高度障害

(1)人体
(2)バイク
③　ガソリンと食料、装備
④　期間と費用
⑤　バイクはどうするか？

①についはこの通りで、ある程度の制約があると思われる。サポートジープが必要。

②(1)高度障害は一番の問題で、人体的には高山病です。大体3500m以上になると大変らしい。肺水腫で死亡する場合もあるのです。出発地、西寧は2200mだがいきなり崑崙山口（4450m）に行ったらとんでもない事になるので手前で高度順化を5～7日やらないと駄目でしょう。また出発前に富士山山頂へ4～5日連泊し、トレーニングした方が安全と思われます。私の友人でエベレスト無酸素登頂に行った者からの話ですと体がだるく、カメラのシャッターを押すにも押せなくなるそうです。とにかくチベット高原は4000～4500mの高地なのです、ラサでさえ3700mなのです。とにかく生きて帰るのです。

(2)この高地では空気が薄いのでバイクも大変です。混合気が平地とはまったく異なるわけですから、高地用のキャブレター、燃料噴射方式等、あらゆる技術が必要となるでしょう。このルートをバイクで走破したという話は今だかつて聞いたことがありません。だから行くのです。

③ガソリン、食料、装備
青蔵公路は軍事上重要ルートの為、所々に村もあり、ガソリン・食料は手に入るらしいが、サポートジープにガソリン・食料等、積んでしまった方が良い。つまり高度障害をなるべく無くする為である。装備は、冬用となる。しかも、なるべく共同で使えるものは使い、個人の装備の無駄は無くす。特に必要なものは酸素ボンベである。死んだ人は鳥葬になりますよ。共同装備と個人装備を明確にしなければならないでしょう。

④期間と費用
期間は、最低25日（北京～西寧への移動、高度順化、予備日、ラサ及び周辺での滞在など）40日あれば余裕と思われる。面倒だから2ヶ月にしましょ。季節的には6～8月、ネパール側は雨が多いと思われる。
費用はざっと「ひゃくまんえん」以上になりそうです。タクラマカン砂漠の一周で70～80万かかってますからおそらくこれくらいでしょう。

⑤バイクをどうするか？
現地手配のバイクは無いと思われるので日本より送るしかないでしょう。しかし送ったバイクは果たして出発地「西寧」に着くのでしょうか？それが問題なのです。むしろ北京からツーリング開始が良いかと思いますね。

〈視点を変えて別の面白いルート〉
黄河源流バイク探険隊（黄河河口～西寧～源流部）ざっと6000km位か。最後は西寧起点で入吐蕃道を行き、ザーリン湖・オーリン湖方面をまわる。約1000km、湿地帯もあり大変であるが面白そうだ。帰ってこれるかわかりません。

〈総括〉
チベットへの道は遠い。今までの野宿塾を遥かに越えています。安易な取組みは死によってのみ証明されるでしょう。具体的には「人、物、金」をいかにするかになります。したがって、「チベットプロジェクトチーム」が必要となります。これを実行するには最低2年必要です。

まずこの壮大なる夢に賛同する組員でチームを作り、寺崎氏一人とスタッフだけでも行けるように協力体制を作ることです。総費用は300～500万かかるでしょう。しかし実現の為に努力すれば必ずよきスポンサーも見つけられるでしょう。そしてこの目的は「ツーリング」ではありません。チベットという世界を日本人として心から友好の意を示し、理解するという目的であるべきです。その為には、バイクの世界だけでなく、登山や探険の団体にも巾広く応援してもらわなければ成功出来ないでしょう。

今、私はこの計画に実際、参加できるかわからないが、実現する為に一歩でも前に進みたいのです。ただその一念です。あとは、組長の熱意だけです。そして組員のみなさん、あらゆる知恵と勇気を！創造する寺崎組の為に出して下さることを祈ります。

正しいおじさんの巻

寺ちゃん　J-king

やなちゃん　なんでも相談室

Q　TWのタイヤ交換費用はいくら程なのか？
（群馬県太田市　Kさん　他同様質問三件）

A　YSP鶴見店さんで、タイヤ30%引でF・12，040円R・13、860円（工賃3、500円ずつ）でした。
因にスプロケ前後とチェーンは工賃込で18、080円でした。

おわびと訂正

前号の平成七年度の組会の開催日に誤りがありました。おわびを申し上げるとともに訂正いたします。

誤　12月25日　小武川宴会
正　12月23日　小武川宴会

平成七年度寺崎組宴会地

塾＝8月13日12時集合
岩手県滝沢村
滝沢分かれにある酒屋コンビニ

塾＝9月23日12時集合
岐阜県坂下町坂下駅前

宴＝11月25日正午より
東京都奥多摩町倉戸山頂上

宴＝12月23日正午より
山梨県韮崎市小武川上流
甘利山青木鉱泉分岐近く

宴＝平成7年2月24日正午より
群馬県利根川河川敷
エンデューロ大会

組長執筆中雑誌

○ダートスポーツ　造形社　毎月24日発売
○バックオフ　フィールド出版　不定期
○オートキャンパー　毎月6日発売
○サイクルフィールド　八重洲出版　毎月15日発売
組長隔月　山海堂　毎月25日発売
○CCV　（季刊）大日本絵画　春号4月末発売
組長単行本
「バイクキャンピング」山海堂　絶賛発売中！

新聞購読料振り込み先

第一勧業銀行　国分寺支店
普通口座　1110912
口座名　寺崎　勉
組新聞購読料／年間　2千円以上

「原稿大募集のお知らせ」

良い子も悪い子も寺崎組もその予備軍も自分らしさを原稿で写真でマンガで自分だけの表現でしてみませんか？
送り先は左記
〒一八五
東京都国分寺市東元町三～二十九～七
スタジオエッグ寺崎組